



# 指扇中だより



～WE LOVE SASHIOGI!～

〒331-0078 さいたま市西区西大宮 3-31-1 TEL 048(624)6234 FAX 048(624)2479

## 『赤と黒のブルース』

校長 おおこうち のりかず 大河内 範一



我が家には『レッド』と『ブラック』の2頭のトイ・プードルがいる。その昔、「犬が欲しい」と騒ぐ家族に対し、動物と暮らした経験がなく、まったく気乗りしなかった私は、「じゃあ、とりあえず値段だけは調べてみるか」とホームセンターのペットコーナーに連れて行ったところ、店内でも騒がれ、結局そのまま購入することになってしまった。

さらに半年後、同じペットコーナーにふらりと立ち寄った際、ありえない格安価格で店頭にいる黒い犬と目が合った。「販売するには成長して大きくなり過ぎてしまって、なんとか・・・」という話を店長から持ち掛けられ、つついその場で購入してしまった。手提げ式の段ボール箱に入れて持ち帰り、「はい、犬を買ってきたよ～」と子どもたちに渡し、びっくり仰天していた光景が懐かしい。

まだ幼かった息子と犬の間では、どちらの立場が上なのかを争っている時期があった。最後は息子が犬のマズル（鼻の部分）に噛み付くという、どちらが犬だか分からないような暴挙に出て、自分の優位を見事に勝ち取っていた。

犬の飼育に関しては、ずぶの素人だったので、とにかく躰がなっていない。家に人が来ると必ず吠える。不審者対応としては役割を果たしているものの、「ワオ～ン」と狼の遠吠えのような鳴き方をすることもあり、近所迷惑も甚だしい。

一番大きな生活の変化は、毎日散歩に連れて行く習慣ができたことである。地域の新築物件を発見して羨ましがったり、近所の庭に咲いている花を眺めては季節の移ろいを感じたり、初めて味わうのんびりとしたひとときだ。これはきっと「優雅で贅沢な時間」を犬たちがプレゼントしてくれたんだなと思っている。

ギクシャクしながら始まった犬との生活もいつの間にか落ち着き、すっかり家族の一員になっていた。犬たちも老犬に差し掛かる年齢となり、この原稿を書いている今も、私の横にくっついてゴロゴロしている。その安心しきった寝顔を見ていると、このままいつまでも元気でいてほしいと願わずにはいられない。

新しいことを始める時、何かに挑戦する時、なかなか踏み出せないことがあるが、迷ったら前へ進んでみよう。必ずや素晴らしい世界が広がっていくと思う。

リビングに設置されているトイレの場所から、的外れの位置にウ○チがされていることが相変わらず続いているが、時折それが直立しているのを見た時には「茶柱みたいで縁起がいいね！」と優しく微笑むようにしている。